



THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA-RYOHOKU

広島陵北ロータリークラブ

- The Weekly Report -

～ クラブのテーマ ～

こころゆたかなロータリアン

～ 本年度会長方針 ～

みんなで作ろう ロータリー

ロータリーを
実践し



みんなに
豊かな人生を

2013-2014 R.I.会長メッセージ

第1082回例会 2013年8月7日 No.1052号

■ 会長時間



会長 森川 和彦

今年も暑い夏の1日を迎えました。68年前の昨日、原子爆弾が投下されて9万人を超える市民が亡くなりました。この日に改めて平和を希求することは大変意義の深いことですが、我々広島市民にとっては、なによりも亡くなった市民の方々の慰霊の日であると思います。心からご冥福をお祈り申し上げます。市民球場の跡地の用途もどうやら決まりそうですが、ここに慰霊の森を創ってはと夢想することがあります。広島には植木はあっても森はありません。大都会東京の真ん中に明治神宮の森が別世界を創っている様子、その森が自然にできたのではなく、明治の先輩たち

の100年計画の成果であることを考えると、原爆ドームの北側から広島城の周りまで、100年後に深い森ができれば、業火に焼かれた市民の方々に少しくらいは喜んでもらえそうな気がするのです。もちろん、経済効率やメンテナンス、安全の確保など様々な問題がありますので、なかなか難しいことなのだと理解はしているのですが、暑い1日が来るとそんな夢想をしてみます。さて、生き残った者は前に進まなければなりません。ロータリーの8月は、会員増強及び拡大月間です。当クラブは、下田直前会長のご尽力で昨年度9名の会員増強を果たすことができました。今年度も、3名以上の増員を計画しておりますので、ご協力のほど、よろしく願いいたします。ところで、いまさらですが、会員増強はなぜ必要なのでしょう。以下は私見ですが、まず、クラブ運営の観点からすれば、会費を納入してくださる会員が多い方が一人当たりの運営コストは下がりますので、増強が望ましいということになります。また、社会奉仕やロータリー財団からすれば、寄付をしてくださる会員が多い方が集まるお金が多くなり、多様なプログラムに対応できるようになるので、増強が望ましいということになるでしょう。特にロータリー財団寄付金の額は、定額に会員数を乗じた金額となっていますので、会員数とより密接な関係があるかと思えます。ここまでは、数ある慈善団体、どんな社会奉仕団体にも共通した事情ですが、ロータリーの会員増強の意味はこれだけでしょか。入会候補者の資格審査の際、必ず検討しなければならない項目に職業分類があります。ロータリーでは1人1業種の原則があるからです。この原則は、もともとは同じ業種の会員がいると利害の対立が発生して親睦を阻害するという理由から定められたものです。とすると、すでに同業者の会員がいる場合には職業分類が空いていませんので、入会できないことになり、入会のハードルをあげる原因となっていました。RIの定める標準職業分類表が、各クラブどころか世界中の国や地域の実情すら反映していなかったことも問題でした。しかしながら、親睦が理由なら、親睦を阻害しなければ入会を認めていいわけですから、同業会員の同意があればよいか、会員資格を複数作るとか、業種で分けるなどして実質的には同業者も入会できる道が開かれるようになりました。もっとも、これでは混乱するとして、原則の緩和と会員資格の正会員と名誉会員の2種類への統一が行われました。ただ、これで職業分類がさしたる意味のない歴史の遺物になったわけではありません。もう一度、1人1業種の原則を考えてみる必要があると思います。

今回の例会(8月21日)

来賓卓話
プロ野球解説者
山崎 隆造 様

次回の例会(8月28日)

夜間例会並びに野球観戦家族会

出席報告

(小林例会運営委員長)

8月7日(水)出席者

会員総数	47名
出席会員	39名
欠席会員	8名
ご来賓	0名
ご来客	4名
ゲスト	0名

来客者紹介

(菅親睦家族委員)

8月7日(水)出席者

広島RC	1名
広島南RC	1名
広島中央RC	2名

幹事報告(鈴木幹事)

■ 例会変更

- ・広島北RC「休会」8月15日(木)
- ・広島南RC 広島城南RC「休会」8月16日(金)
- ・広島東南RC「新会員歓迎例会・懇親会」
【とき】8月19日(月) 18:30～【※同日変更】
【ところ】ANAクラウンプラザホテル広島
- ・広島安佐RC「夏の家族会」
【とき】8月22日(木) 18:30～【※同日変更】
【ところ】シェラトンホテル広島

■ お知らせ

- ・「9/11(水)の創立23周年記念例会並びに懇親会のご案内を配布しております。ご回答は回覧にてお願いします。
- ・来週14日(水)は休会ですので、お間違えのないようご注意ください。また、事務局は13日(火)～16日(金)が休みとなります。

■ BOX配布物

- ・在広RC2013-2014年度会員名簿を配布しておりますので、ご確認ください。
- ・カバナー月信8月号、ロータリーの友8月号を配布しておりますので、お持ち帰りください。
- ・新会員候補者通知文を配布しております。個人情報ですので取り扱いにご注意下さい。

【例会】 毎週水曜日(12:30～13:30) / リーガロイヤルホテル広島(広島市中区基町6-78) / 082-502-1121

【会長】森川 和彦

【事務所】広島市中区基町6-78 リーガロイヤルホテル広島13F

【TEL】082-221-4894

【幹事】鈴木 大次郎

【ホームページ】<http://www.ryohoku-rc.jp/>

【FAX】082-221-4870

会員卓話(1/2)

原爆の日をむかえて

下田 敬三 会員

皆さん こんにちは、昨年の8月の会長時間で、私の兄(長男)が、海軍航空隊に志願兵として入隊し、21歳の若さで、南洋の島で戦死したお話をさせていただきました。この度、例会運営委員長の小林さんから、「平和」について、卓話をお願いしたいとの話がございます、引き受けはしたものの、少し心配しています。



昨日、8月6日は、広島に原子爆弾が投下され、一瞬のうちに、10数万人の尊い命が奪われ、そして今、なお被爆で苦しんでおられる人がいます。あの日から、68年を迎え、広島市は、「平和記念式典」、そして犠牲者のご冥福と平和を祈る一日でした。8月2日の中国新聞に、私が伝える「被爆体験」としての記事がございました。読まれた方もおられると思います。今、被爆者の高齢化が進むなか、本人に代わって体験を語りつぐ「被爆体験伝承者」を養成する広島市の事業が2年目を迎えました。養成を受ける人は、本人・家族以外が7割だそうです。よくテレビ等で報道されています、平和学習・修学旅行生に被爆体験を語っておられるいわゆる「語りべ」の方が、80歳以上の高齢者となっております。私が、これからお話をさせていただきますのは、すべて、父親・祖母から聞かされた事です。

私は、山県郡北広島町壬生(ユネスコの世界文化遺産に登録されました、壬生の花田植)で、6人兄弟の末っ子として、昭和16年3月に生まれました。第二次世界大戦の真ただ中であり、その年12月8日、日本海軍がハワイの真珠湾奇襲攻撃により太平洋戦争が始まった年であります。昭和20年8月6日、広島に原子爆弾が投下され、続いて8月9日には長崎にも原子爆弾が投下され、そして8月15日、日本は、無条件降伏し戦争が終わりました。この戦争で、母親は原爆で亡くなり、そして、先ほど話しました長男は、昭和19年2月に戦死致しました。原爆が投下された時は、自分は3歳5ヵ月で、末っ子であり母親にあまっていたそうです。お母さんが原爆で亡くなったことが分からないので、お母さんがいつ帰るのか泣きながら待っていたそうです。そのお母さんの顔は、微かにしか覚えていません。

なぜ、田舎に住んでいた母親が原爆の犠牲になったのか、前置きが長くなりましたが、これからは、本題の話になります。

当時、長女が(16歳)学徒動員で呉の軍需工場に働いていました。その長女が、お母さんに会いたいために、身体の調子が悪いので面会に来てほしいと手紙を出しました。母親は、その手紙を読み、娘の体のことが心配になり、少しの食べ物を用意して娘を元気づけようと面会に行くことにしました。当時、田舎から町に出かけるのは、木炭バスも限られていて大変なことだったそうです。末っ子の自分を連れて行こうかどうしようか迷ったそうですが、真夏の暑いときであり、道中も大変と思い、一人で呉に行くことにしたのです。その日が8月5日です。

娘に面会し(娘は元気だったそうです。後から分かったことですが、長女は、母親に会いたいために仮病を使っていたのです)その日のうちに広島まで戻り、舟入南町の親戚の所に泊まり、翌朝(8月6日)早く、自宅に帰ろうと、親戚の家を7時過ぎに出て電車で紙屋町に向かいました。原爆が投下された8時15分、おそらく母は、紙屋町の爆心地に居たこととなります。

会員卓話(2/2)

その時父は、八千代町上根に飛行場を作る現場で作業していたそうです。広島方面から大きな爆音と黒い煙が立ち上がったのが見えたといいます。それが原子爆弾であることは、その時は誰も知る由はありません。そして、まさか妻が、その爆弾の犠牲になるとは、思いもしていなかったのです。何でも、広島に大きな爆弾が落ちたようだ、地域の人は、言っていたそうです。しかし、その日にトラックで被爆した人達が帰ってくるのを見たときに、もしかして、妻が…と思ったそうです。日が暮れても帰る予定の母が帰って来なかったのです。父は、一睡もせず翌朝自転車で広島に行きました。横川に着くと、広島は、一面焼け野原となり、被爆で亡くなられた人、身体中が焼けただれた人、水が欲しいと川に飛び込む人…この世の地獄を目の前にして、呆然と立ちすくんだそうです。それから数日、母を探し歩いたそうですが、母は、紙屋町あたりで(爆心地)被爆しているので、影も形もないのです。

呉にいる長女も、広島に大きな爆弾が落ち広島市内が全滅だと知り、もしかして、お母さんが…と心配して実家に帰りました。長女が家に着いたのは、暗くなって、夕食の時間だったそうです。玄関でしばらく家の中の様子を聞いていたそうですが、母親の声は聞こえません。静かな中、幼い私が何かを言っているのが聞こえたそうです。姉は、お母さんが、いてほしい一心で戸を開けて中に入りました。すると父が、「節子か」(母の名前は、節子)と言い、玄関に飛んで出て来たのです。そこに立っていたのは、長女の君江でした。そこで、姉は、母親が帰っていないことを知り、泣き崩れたそうです。姉は、自分が母親に逢いたいために仮病を使い、母親が面会に来てくれたことで、原爆の犠牲になったことを思うと、自責の念に苛まれ、立ち直るのに相当の時間がかかったと聞いています。その姉は、原爆病院に入退院を繰り返し、70歳で亡くなりました。

父は、明治生まれの頑固なところがありましたが、5人の子供を育て79歳で亡くなりました。今思いますのに、母は、8月6日8時15分にあわすかのように、爆心地で亡くなる運命だったのでしょうか、もしあの時、私が、母に手を引かれて一緒に呉に行っていたら、私の今は無かったのだと思うと、運命を感じます。

人類史上はじめて、広島に原子爆弾が投下され、多くの人が尊い命奪われ、そして今なお被爆で苦しんでおられることを思うと、このことを後世に言い伝えなければなりません。世界平和のために。



.....SMILE BOX

下田敬三 会員

昨日8月6日は広島に原子爆弾が投下され、68年を迎えました。今なを被爆で苦しんでおられる人がおられます。核のない世界平和、幸せを感じる世界になることを祈念します。

S. A. A

世界平和の為、全員出宝をお願い致します。

当日計

50,000円

累計

177,000円